

## 大雨への日常的な備えについて

昨年8月に東北地方で発生した線状降水帯による大雨や、今年7月の秋田県の大雨等、近年は台風以外の大雨による被害が増えています。

台風は進路の予測ができるため事前の準備が可能ですが、線状降水帯による大雨等は事前の予測が難しいため、普段からの備えが重要になります。

そこで今回は、大雨に対する日常的な点検・準備についてポイントを説明します。

7月の大雨による秋田市の浸水状況



ヘリ画像（令和5年7月17日みちのく号撮影）

### 【主な点検項目】

#### ① 屋上

- ルーフドレイン、といに堆積物、ゴミが溜まっていないか
- 防水層に浮き、剥がれ、亀裂がないか
- 笠木のズレ、破損による隙間ができていないか

#### ② 外壁

- 仕上げ材に剥落、浮き、亀裂がないか
- シーリング材に破断、変形、損傷がないか
- といに破損、腐食、水漏れがないか

#### ③ 外部建具（窓、扉、シャッター等）

- 降雨時に外部建具及びその周辺からの漏水がないか
- 開閉作動状態や施錠に問題がないか
- ガラスの傷、ひび割れがないか

#### ④ 建物内部

- 天井、壁、床に漏水の痕がないか
- 縦樋の保温材に漏水の痕がないか

#### ⑤ 屋外

- 雨水排水桝、側溝内部に堆積物やゴミが溜まっていないか
- マンホール、ハンドホールの蓋に損傷、ぐらつきはないか



※上記の点検において不備が見つかった場合には、できるだけ速やかに清掃や養生等の応急措置を行った上で、必要に応じて専門業者に調査、補修を依頼してください。

## 【 主な準備項目 】

### ① 大雨による被害発生への備え

- ロープ、ビニルシート、養生テープ、新聞紙、バケツ、雑巾、スコップ、ドライバー等の工具
- 停電対策として、懐中電灯、ポータブルラジオ、乾電池（非常用発電設備の燃料も確認）

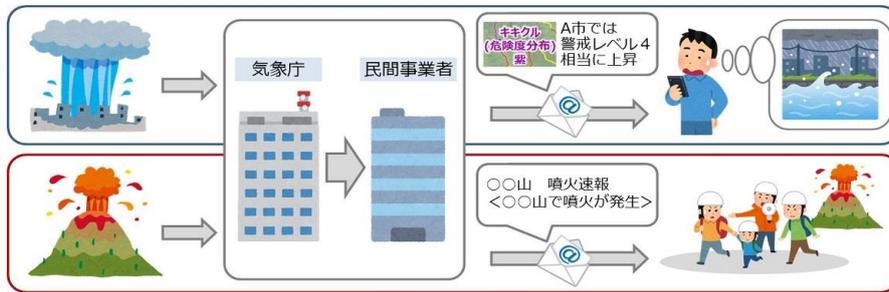
### ② 大雨による災害に関する情報収集

- 施設付近の最新のハザードマップで予想される浸水深や土砂災害の範囲を確認し、避難経路も確認しておく

<https://disaportal.gsi.go.jp/>

- 普段の天気予報の他に、気象庁ホームページの「キキクル」（危険度分布）で土砂、浸水、洪水災害の情報を確認する（登録を行うことでプッシュ型通知サービスも利用可能）

[https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/push\\_tsuchi.html](https://www.jma.go.jp/jma/kishou/known/bosai/push_tsuchi.html)



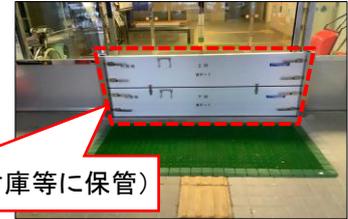
（イラスト出典：気象庁のホームページより）

### ③ 情報収集を基に浸水のおそれがある場合の備え

（普段から設置訓練をしておく）

- 防水板が整備されている施設の場合は、防水板を設置
- 必要に応じて土のう等を設置

防水板の一例（普段は倉庫等に保管）



## 【 その他 】

- 東北地方整備局のホームページでは、各種災害への備えに関する施設保全の情報を提供しています。「風水害対策点検表」も掲載しているので活用してください。

<https://www.thr.mlit.go.jp/Bumon/B00093/K00490/eizen/bousai/bousai.html>

- 官庁施設で大雨による浸水等の被害が生じた際には、「官庁施設の被災情報伝達要領」に則り各地方整備局等の営繕部に被災情報の伝達が必要です。

[https://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild\\_tk2\\_000022.html](https://www.mlit.go.jp/gobuild/gobuild_tk2_000022.html)

- 東北地方整備局では保全に関する相談窓口を設置しています。前項の点検方法、点検後の対策方法、被災時の復旧方法等につきまして、不明な点がございましたらご相談ください。